

アルゼンチン

2022年8月30日

海外調査部・ブエノスアイレス事務所

2021年のアルゼンチン経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）まん延防止のための行動制限の緩和と経済活動の再開を受けて、実質GDP成長率が10.4%と2ケタ成長を記録した。国際資源価格の高騰により輸出は過去最高の水準に達し、貿易黒字幅も前年比で増加したが、外貨準備高の積み増しにはつながっていない。外貨不足により資本取引規制が強化されビジネス環境は厳しいが、銅や炭酸リチウム、グリーン水素開発への巨額の投資が発表されている。

■新型コロナの反動でGDPは2ケタの伸び

2021年の実質GDP成長率は4年ぶりにプラスに転じ、前年比10.4%増と2ケタの伸びを記録した。2021年第2四半期に新型コロナまん延防止のための行動制限が緩和され、経済活動が再開したことが背景にある。需要サイドでは、総固定資本形成と民間消費が経済成長を牽引した。高インフレにより、現金資産の目減りを回避するべく、不動産、自動車など固定資産を購入するといった動きや、2021年10月の中間選挙前に行われた、所得税の対象となる所得金額の最低ラインの引き上げ、政府主導の賃上げなどによる影響とみられる。供給サイドでは、製造業、卸売り・小売り・修理業、不動産・賃貸業が好調だった。

表1 アルゼンチンの需要項目別実質GDP成長率

	2020年	2021年				2022年	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	
実質GDP成長率	△ 9.9	10.4	3.1	18.1	11.8	8.9	6.0
民間最終消費支出	△ 13.7	10.0	△ 0.1	19.5	12.0	10.0	9.3
政府最終消費支出	△ 1.9	7.1	0.4	6.2	9.7	11.8	6.5
国内総固定資本形成	△ 13.0	33.4	39.2	77.4	20.6	14.7	12.7
財貨・サービスの輸出	△ 17.7	9.2	△ 10.5	8.0	19.5	22.5	9.3
財貨・サービスの輸入	△ 18.5	22.0	4.2	38.0	26.8	22.1	28.1

〔注〕 四半期の伸び率は前年同期比。
〔出所〕 国家統計センサス局 (INDEC)

2021年の消費者物価上昇率は50.9%と、インフレが急伸した。高インフレの要因の1つに通貨供給量の増加が挙げられる。財政赤字の穴埋めを目的に中央銀行が国債を引き受ける、いわゆる財政ファイナンスがその原因だ。2021年は、中間選挙前に行われた年金受給資格の前倒しや、個人所得税課税対象額の下限の引き上げなどで歳出が増加、財政ファイナンスがそれを支えた。

通貨ペソ安の流れは前年から続いたが、年初来の下落幅は18.5%にとどまった。インフレを回避するために為替介入により通貨安を抑えた結果だが、過大評価された公式為替レートは輸入の増加につながり、外貨準備積み増しの妨げとなった。

2022年に入ると、穀物価格の歴史的な高騰で外貨収入があるにもかかわらず、外貨準備高は枯渇していった。2018年にIMFから受けた450億ドルの融資の返済が2021年9月から始まったためだ。その後、政府はIMFと交渉を重ね、2022年3月、インフレ抑制に主眼を置いた経済政策プログラムを実施する約束の下、債務再編で合意した。これにより、IMFの拡大信用供与措置 (EFF) により再び支援を受けることで外貨準備の危機を一時的に脱した。だが、外貨準備高の積み増しは進まず、資本

取引規制は引き続き強化されている。IMFの支援は2024年9月までで、債務の返済は2026年から始まる。政府はパリクラブとの債務再編合意を目指す。

■国際資源価格高騰の恩恵は限定的

ロシアのウクライナへの軍事侵攻により、食料やエネルギーなど資源の国際価格が高騰する中、トウモロコシ、大豆、小麦といった穀物の輸出国のアルゼンチンには追い風だ。しかし、天然ガス、石油の産出国でありながら燃料などのエネルギーを輸入に依存しており、国際資源価格の高騰はアルゼンチン経済にとってプラスにもマイナスにも働いている。

また、幅広い産業で、生産設備や原材料といった資本財や中間財を輸入に依存しているため、通関時の輸入代金の支払い遅延といった資本取引規制の強化による輸入の制限は、経済成長の阻害要因になりかねない。引き続き高インフレは、消費者の購買力低下につながり、GDPの7割を占める民間消費を下押しする可能性もある。それでも、中央銀行が民間エコノミストらを対象に毎月実施している主要経済指標の予測値に関するアンケート調査 (REM) によれば、2022年の実質GDP成長率は3～4%台が見込まれている。

■貿易黒字は過去最高水準に

2021年の貿易 (通関ベース) は、輸出が前年比42.0%増の779億3,400万ドル、輸入は同49.2%増の631億8,400万ドルとなり、輸出は過去3番目に高い水準となった。貿易収支は15.1%増の147億5,000万ドルの黒字で、過去5番目に高い水準となった。

輸出を品目別にみると、陸上輸送機器 (68.1%増)、大豆などの穀物 (51.8%増)、大豆油かすなどの食品産業残留物 (50.6%増) が輸出額の伸びを牽引した。穀物は国際資源価格の高騰が、陸上輸送機器では主要輸出先であるブラジルの経済復調による輸出増が背景にある。輸入を品目別にみると、輸入額全体に占める構成比が大きい中間財 (53.6%増) が輸入全体を大きく押し上げた。コロナ禍を経て、生産活動が活発になった結果だ。一方、乗用車 (4.8%増) の輸入額は微増にとどまった。資本取引規制などが背景にあるとみられる。国内では新車を販売したくても在庫が足りない状況で、新車だけでなく中古車価格の上昇にもつながっている。

輸出入を国・地域別にみると、輸出では、主要相手国・地域のブラジル (48.3%増) や欧州 (EU27と英国) 向けが堅調だった。輸入は、

表2 アルゼンチンの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)				輸出寄与度	輸入寄与度
	2020		2021			2020		2021			
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率		
一次産品	16,207	21,828	28.0	34.7	資本財	7,374	10,181	16.1	38.1	10.2	6.6
穀物	9,000	13,659	17.5	51.8	輸送機器を除く資本財	5,405	7,416	11.7	37.2	8.5	4.7
油糧種子	3,425	3,885	5.0	13.4	産業用輸送機器	972	1,145	1.8	17.8	0.8	0.4
農畜産物加工品	21,786	30,951	39.7	42.1	中間財	16,765	25,758	40.8	53.6	16.7	21.2
食品産業残留物	8,465	12,746	16.4	50.6	産業用資材	12,758	19,096	30.2	49.7	7.8	15.0
油脂類	4,805	8,700	11.2	81.1	産業用食糧・飲料	2,090	2,750	4.4	31.6	7.1	1.6
食肉および加工品	3,423	3,505	4.5	2.4	燃料・潤滑油関連品	2,640	5,843	9.2	121.3	0.1	7.6
工業製品	13,298	19,940	25.6	49.9	資本財部品	7,592	11,890	18.8	56.6	12.1	10.1
陸上輸送機器	3,852	6,475	8.3	68.1	消費財	6,015	7,236	11.5	20.3	4.8	2.9
化学製品	3,171	5,013	6.4	58.1	非耐久消費財	1,501	1,692	2.7	12.7	3.4	0.5
機械・電気機器	1,064	1,377	1.8	29.4	半耐久消費財	1,389	1,714	2.7	23.4	0.6	0.8
金属製品	1,267	1,843	2.4	45.5	医薬品	1,066	1,138	1.8	6.8	1.0	0.2
燃料・エネルギー	3,593	5,215	6.7	45.1	家庭用加工食品	730	915	1.4	25.3	3.0	0.4
燃料・ガソリン	1,453	1,536	2.0	5.7	耐久消費財	539	703	1.1	30.4	0.2	0.4
原油	1,077	1,842	2.4	71.0	乗用車	1,614	1,692	2.7	4.8	1.4	0.2
合計 (その他含む)	54,884	77,934	100.0	42.0	合計 (その他含む)	42,356	63,184	100.0	49.2	42.0	49.2

[注] 2020年は暫定値、2021年は推計値
[出所] 国家統計センサス局 (INDEC)

ブラジル(43.3%増)や、最大の輸入相手国である中国(56.3%増)から大きく増加した。アルゼンチンの貿易額全体に占めるメルコスール加盟国(ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイ)との貿易比率は、横ばいの21.6%だった。メルコスール加盟国間の貿易をみると、ブラジルとウルグアイ間は域内貿易比率が下がっている。

■資源エネルギー分野に集中する対内直接投資

国家統計センサス局(INDEC)

によると、2021年の対内直接投資額は、前年比58.0%増の54億2,000万ドルだった。発表ベースの新規投資については、銅、リチウムといったアルゼンチンが世界有数の埋蔵量を持つ鉱業分野、豊富な再生可能エネルギーを利用したグリーン水素開発などへの大型投資案件が目立つ。アルゼンチンでは対外債務問題に起因する資本取引規制により利益送金が難しく、外国直接投資が集まりにくい状況だが、政府は、輸出を目的とした新規投資または再投資を行うことを条件に、輸交代金の一部を外国への支

表3 アルゼンチンの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2020年		2021年		2020年		2021年	
	金額	比率	金額	伸び率	金額	比率	伸び率	
南米南部共同市場(メルコスール)	9,999	14.615	18.8	46.2	11,284	15.929	25.2	41.2
ブラジル	7,941	11.776	15.1	48.3	8,649	12.392	19.6	43.3
チリ	2,890	4.182	5.4	44.7	539	0.966	1.1	29.0
その他のラテンアメリカ統合連合(ALADI)	2,974	4.530	5.8	52.3	1,634	1.920	3.0	17.5
中米統合機構(SICA)	595	999	1.3	67.8	24	30	0.0	21.7
米国、メキシコ、カナダ	4,186	6,401	8.2	52.9	5,654	7,749	12.3	37.1
EU27	3,264	4,921	6.3	50.8	4,366	5,865	9.3	34.3
英国	6,715	9,871	12.7	47.0	6,625	9,311	14.7	40.5
スイス	570	761	1.0	33.5	386	541	0.9	39.9
ロシア・CIS	1,021	956	1.2	△ 6.4	420	532	0.8	26.8
ASEAN	718	836	1.1	16.4	184	679	1.1	269.3
中国(香港・マカオ含む)	5,845	7,441	9.5	27.3	2,489	3,928	6.2	57.8
韓国	5,397	6,299	8.1	16.7	8,664	13,538	21.4	56.3
日本	691	1,722	2.2	149.1	365	648	1.0	77.4
インド	317	723	0.9	127.6	724	1,140	1.8	57.6
中東	2,508	4,301	5.5	71.5	801	1,394	2.2	74.0
マダガスカル諸国およびエジプト	3,194	4,501	5.8	40.9	482	1,579	2.5	227.4
南部アフリカ関税同盟(SACU)	2,904	4,046	5.2	39.3	542	962	1.5	77.4
大洋州	340	454	0.6	33.4	124	213	0.3	72.0
合計(その他含む)	728	809	1.0	11.2	158	434	0.7	174.0
	54,884	77,934	100.0	42.0	42,356	63,184	100.0	49.2

〔注〕2020年は暫定値、2021年は推計値
〔出所〕国家統計センサス局(INDEC)

表4 アルゼンチンの対内直接投資<国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位:100万ドル、%)

	2019年		2020年		2021年	
	金額	比率	金額	伸び率	金額	伸び率
対内直接投資	5,126		3,430		5,420	58.0

〔出所〕国家統計センサス局(INDEC)

表5 アルゼンチンの主な対内直接投資案件(2021年)

(単位:100万ドル)

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
鉱業	ライベント	米国	2021年5月	974	ライベントは、炭酸リチウムを供給する契約を独BMWと締結。2022年に開始するリチウム開発に3億3,400万ドルを投じると発表。また、アルゼンチン北部オンブレ・ムエルト塩湖における炭酸リチウムの第2生産工場の建設に6億4,000万ドルを投じると発表。
日用品・家庭用品	キンパリークラーク	米国	2021年6月	20	キンパリークラークは、サン・ルイス州の工場で紙オムツの生産を拡大し、近隣国への輸出増加を狙うと発表。
鉱業	ガンフォンリチウム(鎳鋒鋳業)	中国	2021年6月	580	ガンフォンリチウムは、サルタ州のユーヤイヤコ塩湖での炭酸リチウム塩水処理プラントの建設と、同州グエメス市のヘネラル・グエメス工業団地での炭酸リチウムプラントの建設に約6億ドルを投じると発表。
家電製品	ワールプール	米国	2021年7月	40	ワールプールは、生産拡大のためブエノスアイレス州ビラル市に新工場を建設すると発表。生産能力は洗濯機年間30万台。新規雇用1,000人を見込む。
化学・製薬	バイエル	ドイツ	2021年10月	156	バイエルは、国内で稼働中の6つの工場におけるイノベーション、デジタル化、サステナビリティなどについて改善を行い、生産拡大を図ると発表。
鉱業	エラメット	フランス	2021年11月	400	エラメットは、中国青山集団(Tsingshan)と共にサルタ州のセントナリオ・ラトネス塩湖でのリチウム生産工場を建設すると発表。
鉱業	ルンディンマイニング	カナダ	2021年11月	4,200	ルンディンマイニングは、サンファン州のホセマリア地域における銅・金・銀鉱山開発プロジェクトに総額42億ドルを投資すると発表。
エネルギー	フォーテスキュー・メタルズ・グループ	豪州	2021年11月	8,400	アルゼンチン大統領府は、フォーテスキュー・メタルズ・グループによる、リオ・ネグロ州におけるグリーン水素の生産に84億ドルを投じる計画を発表。
鉱業	ボスコ	韓国	2021年12月	831	ボスコは、オンブレ・ムエルト塩湖における炭酸リチウム開発計画「サル・デ・オロ・プロジェクト」に8億3,100万ドルを投じると発表。
食品	ネスレ	スイス	2021年12月	120	ネスレは、国内の工場のデジタル化、ITインフラの拡大、環境対応のため、今後3年間に合計1億2,000万ドルを投じると発表。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

払いに充てることができる恩典を2021年4月に導入した。中国の紫金鉱業集団の現地子会社がカタマールカ州で進める炭酸リチウムの開発案件など、当該恩典を適用する事例も出てきた。

■対日貿易は大幅増加

INDECによると、2021年の対日貿易額は、輸出が前年比2.3倍の7億2,200万ドル、輸入は同57.6%増の11億4,000万ドル、貿易収支は4億1,800万ドルの赤字だった。日本は、アルゼンチンの輸出相手国として28位、輸入相手国としては11位にとどまる。一方、対日輸入は自動車部分品および附属品が輸入額全体を押し上げた。

表6 アルゼンチンの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
トウモロコシ	n.a.	229	31.8	n.a.	自動車部分品および附属品	170	321	28.1	88.7
甲殻類	54	72	10.0	35.0	ピストン式火花点火内燃機関およびピストン式圧縮点火内燃機関のエンジンに専ら又は主として使用する部分品	42	50	4.3	18.8
果実、ナット又は野菜のジュース	36	35	4.9	△ 2.9	乗用自動車その他の自動車	24	42	3.7	75.1
穀物類 ※	26	33	4.6	29.8	気体・真空ポンプ、気体圧縮機、換気・循環用フード	20	39	3.5	92.2
大豆油かす	n.a.	28	3.9	n.a.	殺虫剤、殺鼠剤、殺菌剤、除草剤、発芽抑制剤、植物生長調整剤、消毒剤その他これらに類する物品	28	29	2.5	3.0
魚並びに甲殻類、軟体動物およびその他の水棲無脊椎動物類 ※	22	19	2.6	△ 12.3	ターボジェット、ターボプロペラその他のガスタービン	0	25	2.2	5,544.0
無機化学品および貴金属、希土類金属、放射性元素又は同位元素の無機又は有機の化合物類 ※	4	18	2.5	404.8	集積回路	13	25	2.2	98.5
天然はちみつ	12	16	2.2	36.5	電気回路の開閉用、保護用又は接続用の機器	15	25	2.2	66.5
食品工業において生ずる残留物及びくず並びに調製飼料類 ※	14	16	2.2	10.1	貨物自動車	2	22	1.9	895.2
酪農品、鳥卵、天然はちみつおよび他の類に該当しない食用の動物性生産品類 ※	15	13	1.9	△ 7.6	ギヤボックスその他の変速機、クランクなど	14	22	1.9	49.6
合計 (その他含む)	317	722	100.0	127.4	合計 (その他含む)	724	1,140	100.0	57.6

[注] 輸出品目の※は、統計上の秘密を理由にHSコード2ケタのみ公表。

[出所] グローバルトレードアトラス (原データは国家統計センサス局 (INDEC))

主要経済指標

	2019年	2020年	2021年
①人口：4,733万人 (2022年)			
②面積：279万1810km ²			
③1人当たりGDP：10,658米ドル (2021年)			
④実質GDP成長率 (%)	△ 2.0	△ 9.9	10.4
⑤消費者物価上昇率 (%)	53.8	36.1	50.9
⑥失業率 (%)	8.9	11.0	7.0
⑦貿易収支 (100万米ドル)	18,228	14,631	18,696
⑧経常収支 (100万米ドル)	△ 3,710	3,313	6,800
⑨外貨準備高 (グロス) (100万米ドル)	42,164	35,629	36,449
⑩対外債務残高 (グロス) (100万米ドル)	278,489	271,443	266,740
⑪為替レート (1米ドルにつき、ペソ、期中平均)	48.2	70.5	95.0

注1：①暫定値。

注2：④2019年は暫定値、2020～2021年は速報値。

注3：⑦暫定値。

〔出所〕①②④⑤⑥⑦⑧⑩：国家統計センサス局 (INDEC)、③⑨⑪：IMF

(お問い合わせ先)

海外調査部 米州課

ORB-latin@jetro.go.jp